

シドニー留学便り__vol.6

ご無沙汰しております。日本は暑い夏も終わって、秋の気配が感じられてきたころでしょうか。こちらは日本と正反対の気候ということで、ようやく寒い冬が終わり、暖かい春がやって参りました。とは言うものの、一日の温度変化が大きく、朝晩はまだ上着が手放せないという感じです。風邪もまだあちらこちらで流行っているようで、まだまだ油断できませんが、お陰様で、今のところ、私は風邪ひとつ引かず、元気に暮らしております。

大学の隣にあるVictoria Park。奥に見えるのが大学の建物です。色々な花が咲き始め、木々の緑も何となく明るい緑色になってきました。最近、暖かく天気も良いので、芝生やベンチでランチを楽しむ人たちが増えてきました。私も、以前ご紹介したベトナム風サンドイッチ(バインミー)を、よくこのベンチで食べています。



■ 2nd Semester開始！

6月末に1st Semesterが終了してから約1か月間の冬休みをはさみ、7月末から2nd Semesterが始まりました。1st Semesterは全て必修科目で科目数も少なめでしたが、今期は大部分が選択科目となり、科目数もやや増えました。今期の必修科目は、“Public Health Ethics”と“Making decisions in Public Health (Health economics と Health policy が一緒になったような科目)”です。これらは単位数が少なく、Semesterの前半で終了してしまうのですが、今まできちんと学んだことがない上、苦手意識の強い分野を英語で学ばなくてはいけないということもあり、理解するのに苦労しました(辞書で意味を引いても、その日本語の意味が分からないこともしばしば…)。今でもどのくらい理解できたのか正直自信がありません。

一方、選択科目としては、“Advanced Epidemiology”, “Multiple regression analysis (重回帰分析がメイン)”, “Categorical data analysis (多重ロジスティック回帰分析がメイン)”, “Survival analysis (生命表やCox比例ハザードモデル)”といった疫学・生物統計学分野の科目に加え、せっかくオーストラリアの大学で学んでいるので、“Tobacco control”を履修しています。どの科目も非常に良くorganizeされた内容になっていて、これまで手薄になっていたり意識していなかった点について知識の穴埋めをしたり、発展的な知識を取り入れることができ、予習復習に追われながらも興味を持って取り組むことができます。また、1st Semesterでは、SPSSを基本統計ソフトとして使用していましたが、今期の選択科目ではSASを使用することになっており、一からSASの使い方について学んでいます。慣れるまではもう少し時間がかかりそうです。

■ Public Health Ethics —公衆衛生倫理

さて、2nd Semesterで履修している科目をご紹介しましたが、その中で学んだことについて、今回を含め今後のお便りを通して、ご紹介していきたいと思います。

今回は、まず”Public Health Ethics”について。この分野は比較的新しい学問領域のようで、以前から確立されていた”Bioethics”や”医療における倫理”の枠組みに、Public Healthが必ずしも当てはまらず、Public Healthに特化した倫理の枠組みの必要性が指摘されはじめたことを背景に、1990年代後半あたりから発展してきた分野です。簡単に言ってしまうと、Public Health program/policyを実施するにあたって、どのような倫理的問題が存在して、どのような配慮が必要なのかなどを検討し考察する学問という感じです。当初、「疫学研究に関する倫理指針」にあるような事項を学ぶのかなあと思っていたのですが、研究に特化せずもっと大きなレベルの話でした。これまで倫理的配慮の必要性や重要性は漠然としながらも理解はしていましたが、学問として様々な公衆衛生活動を倫理的な側面から分析する分野があることを認識したのは初めてで、新鮮だった反面、難しかったです。よく倫理的問題として取り上げられるのは、「ワクチンの義務化」についての議論（公衆の健康を守るために個人の選ぶ権利を侵害してよいのか？）で、このような公衆衛生活動に付随する倫理的ジレンマを考える上で、基礎となる理論や枠組みを学びました。

Public Health Ethicsの枠組みについてはいくつか提唱されているようなのですが、その中で簡便でわかりやすかったものは、2001年にアメリカのNancy Kassによって提唱された”An Ethics Framework for Public Health”です (<http://ajph.aphapublications.org/doi/pdf/10.2105/AJPH.91.11.1776>)。公衆衛生活動について、倫理的な側面から考察する手順が、6段階の質問形式にまとめられていて、チェックリストのような感覚で倫理問題を検討できる点がよいなと思いました。

■ Tobacco control in Australia

オーストラリアはタバコ対策については世界でも先進的な国と言われており、そのタバコ対策を推進してきた第一人者が、私の選択した科目を担当している Prof. Simon Chapmanです。今年で定年ということで、講義を直接受けることができラッキーでした。

世界的なタバコ対策の枠組みとして、WHO Framework Convention on Tobacco Control (FCTC, たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約)があり、これを批准した国々はタバコの健康被害を減らすため自国で様々な対策を行うことになっています。日本もFCTCを批准したものの、その対策内容については、他国と比較すると決して十分なものとは言えず、レクチャーの中でも、FCTCの枠組みを”Weak interpretation”している国として”Japan”が例に挙がり、いまだに自販機でタバコを販売している様子や、タバコブランド名を大きく表示したタバコ店看板などが紹介されていました…。唯一の日本人受講生としては、ちょっと残念な気分でした。

次回以降、オーストラリアでのタバコ対策やタバコを取り巻く問題点などについて、またご紹介したいと思います。

■ Festival of the Winds: 凧のお祭り

最後に、最近行われたシドニーでのイベントをご紹介します。今月中旬に、シドニーの市街地から電車とバスで30分くらいのところにあるBondi beach(ボンダイビーチ)で、凧のお祭りが開催され、せっかくの機会なので出かけてみました。毎日建物の中だけにいると気がめいるので、たまにはビーチで景色を楽しむのも、いい息抜きになります。

シドニーには、このようなビーチがたくさんあって、気軽に出かけられるのが良いところです。



写真だと小さくて見えづらいですが、無数のカラフルな凧が青空に映えて、壮観でした！
絡まないのだろうか？とちょっと気になりましたが、不思議とうまい具合にお互いの距離を保っていました。

凧の形もさまざまで、日本でみかける連凧やシンプルなひし形のものもありましたが、中には右の写真のような宇宙人型(左下)や鳥型(右寄り中央)など、風変わりな凧もあって面白かったです。

9月末からの一週間は、Mid-semester breakで大学がお休みになります。”Mid”ということは、始まったばかりと思っていた2nd Semesterも中間地点ということになります。長いと思っていた留学生活もあと3か月もない…時間が過ぎるのは早いものです。日々の生活で、あれも書こうこれも書こうと思っはいるのですが、ちゃんとお伝えできるかどうか…。留学が終わらないうちに、また次回のお便りも早めにお送りします。それでは！